

令和7年10月16日

中標津町議会議長 後 藤 一 男 様

中標津町議会議員 阿 部 隆 弘

研 修 報 告 書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 総務経済常任委員会道内視察
- 2 視察先 小樽市 ウォレットジャパン株式会社
- 3 視察日 令和7年9月29日（月）
- 4 視察事項 コンテナトイレの概要と協定について
- 5 成果

仮設トイレの課題、問題を整理され、清潔で明るく広い移動式コンテナ型トイレを開発したことに感激しました。下水道連結、汲み取りの両方に対応でき、安価な中国製のコンテナに専門業者と連携しながら、トイレユニット、電気設備を自社で製造していることは、改善も容易に対応できることが素晴らしいと思いました。実際の建築現場や屋外施設に設置し、活用されていて、それが災害時に移動でき、仮設トイレとして活躍しています。

本町でも、工事現場やフェスなどの簡易トイレをコンテナトイレへ切り替え、民間業者への普及による官民連携での災害対策が期待できます。トイレノートも被災者に寄り添った温かい取り組みで、これも改善につなげていました。

本町にも、老朽化した公衆トイレがあり、更新が待たれます。更新時にこの移動式コンテナ型トイレを設置し、災害にも備えられることが期待できます。事業者との連携協定も重要で、被災時に輸送対応できることも必要です。

是非、本町として取り組んでいただきたいと思います。



運搬用コンテナトイレ



実際に設置されたコンテナトイレ



- 2 視察先 札幌市 月寒公園
- 3 視察日 令和7年9月30日（火）
- 4 視察事項 マンホールトイレ（施設見学のみ）
- 5 成果

駐車場の歩道上のマンホールトイレを確認、設置数の多さに驚きましたが、冬期間の使用を考えると、厳しいものがあると感じました。

前日にコンテナトイレの使いやすさと清潔さに感激したこともあり、災害対応には、マンホールトイレからコンテナトイレへと進めていきたいと思いました。



マンホールトイレ

- 2 視察先 むかわ町役場
- 3 視察日 令和7年9月30日（火）
- 4 視察事項 事前復興計画について
- 5 成果

事前復興計画は、事前復興準備計画から復興計画へとなっていて、いかに被災前に災害を想定し、その準備と被災後の復興を10年後に設定、実行していくもので被災後は復興計画に取り組むまでに時間を要することからとても重要と感じました。

国土交通省が取り組む助成制度を活用し、本町も早期に取り組むべきと思いました。

また、復旧復興まちづくりサポーターからの助言も受けられることから、活用し、町民からの意見集約をどのように進めるかが計画策定までの時間、被害想定、計画内容が重要なものとなっていることを感じました。

事前復興計画は、都市計画法や立地適正化計画との整合性が必要なことから、本町が道路整備に国の交付金を活用するための立地適正化計画の策定にも着手することになります。

そして、立地適正化計画は、地域公共交通計画をはじめとするすべての計画との整合性が必要で、また、防災指針も加えられたことから、事前復興計画にとって重要となります。

本町は、地震災害が起きても、津波被害がない地域であることから、根室管内1市3町の本町への非難を想定したものが必要となると思いますので、根室管内の最大被害の想定に基づき、管内連携して、策定に取り組むことが必要だと思います。

そして、この計画のもっとも重要なことはいかに町民の方に理解していただくか、首長の思いを積極的に発信していくことがまず、取り組むためのカギとなると担当者から伺いましたので、事前復興計画に取り組むとの答弁をいただくよう委員会代表質問で訴えていきたいと思いました。



モニターによる説明風景

- 2 視察先 千歳市 北海道エアポート株式会社
- 3 視察日 令和7年10月1日（水）
- 4 視察事項 災害時の空港運用について
- 5 成果

A2 - BCPが令和6年に改訂され、そのガイドラインに基づき、空港ごとに周辺自治体、管理者、振興局の連携のもと、訓練が実施されていて、年2回、冬場と夏場に本社と連携し実施されていました。

根室中標津空港は、北海道の管理下にあり、道と根室中標津空港ビル(株)との連携が重要と感じました。そこに町として連携していけるか、管内市町とも協議が必要と感じました。

滞留者が発生する千歳空港では、1日目6,000人、2日目3,000人、3日目500人を想定し、備蓄品が確保されていて、中標津空港も滞留者を想定した備蓄品の確保も必要と感じ

じました。

また、滞留者収容施設も完備し、中標津空港も設置、運用について、想定する必要があると思いました。

中標津空港も災害時ヘリポートとしての活用も想定されますので、災害物資の空港からの輸送について、本町はもちろん、管内市町との連携、協定が必要と思いました。

北海道の各空港が千歳空港を拠点とした連携で災害対策が図られることを望みます。



千歳空港の備蓄品倉庫